なぜ英語が話せないの

〈46〉

会話上達法—第三部—

会話のマナー知ろう

年齢、病気の話など禁物

インド人はめったに「ダンニャワード」（ありがとう）と言わない。彼らにいわせると、日本人はやたらに「ありがとう」を口にし、言葉本来の価値を下げている。人間同士、お互いに相手のために心を尽くすのは当然。すぐに「ありがとう」を言うのは逆に失礼にあたるとの考えだ。「あいつは謝辞も述べない」と批判の矢面に立たされる日本とは、まるで異なる。

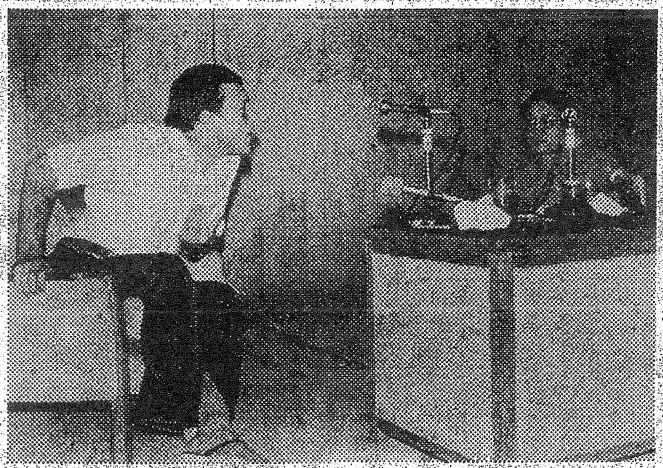
英会話を学ぶうえで、こうした タブーを知っておくことは重要。同時通訳の第一人者、西山千氏は「Why speak English with you?」（英語で話しにいわせると、日本人はやたらに「ありがとう」を口にし、言葉本来の価値を下げている。人間同士、お互いに相手のために心を尽くすのは当然。すぐに「ありがとう」を言うのは逆に失礼にあたるとの考えだ。「あいつは謝辞も述べない」と批判の矢面に立たされる日本とは、まるで異なる。

英会話を学ぶうえで、こ

街角や電車の中で、外人を見ると「May I ask of Japan?」といった質問は避けるべきだと指摘している。

列車で偶然、席を並べた場合、しばらくして何かのきっかけで話し始められよう。「英語で話したい」などと口火を切るのは、あまり不自然である。

相手の言葉がよく聞き取れないときは「I'm sorry I couldn't hear it」と言うのが礼儀。「Once more please」は失礼である。もし、うっかり相手の会話をさえぎったら「I'm sorry. I didn't mean to interrupt」（すみません。さえぎるつもりはありません）とでも言って相手に話を続けることを促すぐらいは英会話の常識である。

食事中は、病気のことや不快な話は避けるのも習慣の一つ。オナラの話やその他生理現象の話はよくない。それから極端なおせじや褒めすぎも逆効果になるケースが多い。

会話には、うまい料理、どこかの町のこと、日本のこと、個人的な経験……など内容は無数にある。相手がいろいろ質問しているのに「イエス」や「ノー」だけでは話は続かない。例えば、相手が「Have you ever visited Rome?」（ローマに行ったことがありますか）と聞いて「ノー」では、会話は切れる。しかし「No, but I'd like to go. Tell me something about the city」（いえ、でも行きたいですね。ローマについて何か教えて下さいませ）と返事すれば、話は自然に広がっていく。会話は相手への心づかいが大切である。